



Cisco Unified IP Phone のカスタマイズ

この章では、設定ファイル、電話機の呼び出し音、背景イメージ、およびアイドル表示をサイトでカスタマイズする方法について説明します。呼出音は、電話機に着信があったときに鳴る音です。背景イメージは、電話機の画面に表示されます。アイドル表示は、電話機が指定された期間にわたって使用されなかった場合に画面に表示されます。

この章は、次の項で構成されています。

- [設定ファイルのカスタマイズと修正, 1 ページ](#)
- [カスタム電話呼び出し音の作成, 2 ページ](#)
- [ワイドバンドコーデックのセットアップ, 4 ページ](#)
- [アイドル表示のセットアップ, 5 ページ](#)
- [Cisco Unified IP Phone のバックライト, 6 ページ](#)

設定ファイルのカスタマイズと修正

設定ファイルを修正して、カスタマイズしたファイルを TFTP ディレクトリに追加できます。ファイルの修正、またはカスタマイズしたファイルの TFTP ディレクトリへの追加は、Cisco Unified Communications オペレーティングシステムの管理ページの、TFTP サーバファイルのアップロードウィンドウから実行できます。Cisco Unified Communications Manager サーバ上の TFTP フォルダにファイルをアップロードする方法については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』を参照してください。

Ringlist.xml ファイルおよび List.xml ファイルのコピーをシステムから取得するには、管理コマンドラインインターフェイス (CLI) で次の “file” コマンドを使用します。

- admin:file
 - file list
 - file view
 - file search

- file get
- file dump
- file tail
- file delete

詳細については、『*Cisco Intercompany Media Engine Command Line Interface Reference Guide*』を参照してください。

カスタム電話呼び出し音の作成

Cisco Unified IP Phone には、Chirp1 と Chirp2 という 2 つのデフォルト呼出音タイプが付属しており、これらはハードウェアに内蔵されています。Cisco Unified Communications Manager には、一連の追加の電話呼出音もデフォルトで付属しており、これらは Pulse Code Modulation (PCM; パルス符号変調) ファイルとしてソフトウェアに実装されています。PCM ファイルは、サイトで使用できる呼出音リスト オプションを記述した XML ファイル (Ringlist.xml) とともに、各 Cisco Unified Communications Manager サーバ上の TFTP サーバに配置されています。

詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager Features and Services Guide*』の「Custom Phone Rings」の章および『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』の「Software Upgrades」の章を参照してください。

次の各項では、PCM ファイルを作成して Ringlist.xml ファイルを編集し、サイトで使用できる呼出音をカスタマイズする方法について説明します。

Ringlist.xml ファイル形式の要件

Ringlist.xml ファイルは、電話呼出音タイプのリストを保持した XML オブジェクトを定義しています。このファイルには、呼出音タイプが 50 個まで記述されます。呼出音タイプごとに、呼出音タイプに使用される PCM ファイルへのポインタ、および Cisco Unified IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)]メニューに表示されるテキストを記述します。このファイルは、各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバに保持されます。

CiscoIPPhoneRinglist XML オブジェクトは、次の簡単なタグセットを使用して情報を記述します。

```
<CiscoIPPhoneRingList> <Ring> <DisplayName/> <FileName/> </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

定義名については、次の規則があります。それぞれの電話呼出音タイプについて、必須の DisplayName と FileName を記述する必要があります。

- DisplayName には、関連付けられた PCM ファイルのカスタム呼出音の名前を指定します。この名前は、Cisco Unified IP Phone の [呼出音タイプ (Ring Type)]メニューに表示されます。
- FileName には、DisplayName に関連付けるカスタム呼出音の PCM ファイルの名前を指定します。



(注) DisplayName フィールドと FileName フィールドは、25 文字以下にする必要があります。

次に、2 つの電話呼出音タイプを定義した Ringlist.xml ファイルの例を示します。

```
<CiscoIPPhoneRingList> <Ring> <DisplayName>Analog Synth 1</DisplayName>
<FileName>Analog1.raw</FileName> </Ring> <Ring> <DisplayName>Analog Synth
  2</DisplayName> <FileName>Analog2.raw</FileName> </Ring>
</CiscoIPPhoneRingList>
```

カスタム呼出音タイプの PCM ファイルの要件

呼出音の PCM ファイルを Cisco Unified IP Phone で正常に再生するには、ファイルが次の要件を満たしている必要があります。

- 未加工の PCM（ヘッダーなし）。
- サンプリング回数：8,000 回/秒。
- 1 サンプルあたり 8 ビット。
- Mu-law 圧縮
- 呼出音の最大サイズ = 16080 サンプル
- 呼出音の最小サイズ = 240 サンプル
- 呼出音のサンプル数 = 240 の倍数。
- 呼出音は、ゼロ交差で開始および終了する。

カスタム呼出音用の PCM ファイルを作成するには、次のファイル形式の要件に対応する任意の標準オーディオ編集パッケージを使用します。

カスタム電話呼出音のセットアップ

Cisco Unified IP Phone のカスタム電話呼出音を作成するには、次の手順を実行します。

手順

-
- ステップ 1** 各カスタム呼出音の PCM ファイルを作成します（ファイルごとに呼出音 1 つ）。PCM ファイルが、[カスタム呼出音タイプの PCM ファイルの要件](#)、[（3 ページ）](#) に示す形式のガイドラインに準拠していることを確認します。
- ステップ 2** 作成した新しい PCM ファイルを、クラスタ内の各 Cisco Unified Communications Manager の Cisco TFTP サーバにアップロードします。詳細については、『*Cisco Unified Communications Operating System Administration Guide*』の「Software Upgrades」の章を参照してください。
- ステップ 3** テキスト エディタを使用して Ringlist.xml ファイルを編集します。このファイルの形式とサンプルの Ringlist.xml ファイルについては、[Ringlist.xml ファイル形式の要件](#)、[（2 ページ）](#) を参照してください。
- ステップ 4** 修正内容を保存し、Ringlist.xml ファイルを閉じます。
- ステップ 5** 新しい Ringlist.xml ファイルをキャッシュするには、Cisco Unified Serviceability を使用して TFTP サービスを停止してから起動するか、[起動時の定数および bin ファイルのキャッシングの有効化（Enable Caching of Constant and Bin Files at Startup）] TFTP サービス パラメータ（[拡張サービスパラメータ（Advanced Service Parameters）] 領域に含まれる）を無効にしてから再度有効にします。
-

ワイドバンド コーデックのセットアップ

Cisco Unified IP Phone 7931G では、デフォルトで G.722 コーデックが有効です。Cisco Unified Communications Manager が G.722 を使用するように設定されており、通話先が G.722 をサポートしている場合、G.711 の代わりに G.722 コーデックを使用してコールを接続できます。この場合、ユーザはコール中の音声の感度がより高く感じられます。感度が高いことで音声の明瞭さは増しますが、紙が擦れる音や近くの会話など通話先から聞こえる背景のノイズもより多く聞こえます。

ワイドバンド ヘッドセットがない場合でも、G.722 の高い感度を好むユーザもいます。ユーザの中には G.722 の高い感度を好まないユーザもいます。Cisco Unified IP Phone 7931G では、ワイドバンド ハンドセットはサポートされません。

この Cisco Unified Communications Manager サーバと特定の電話機の両方についてワイドバンドがサポートされるかどうかは、Cisco Unified CM の管理内の次のパラメータによって決まります。

- [アドバタイズ G.722 コーデック（Advertise G.722 Codec）] : Cisco Unified CM の管理で、[システム（System）] > [エンタープライズパラメータ（Enterprise Parameters）] を選択します。このエンタープライズパラメータのデフォルト値は True です。この Cisco Unified Communications Manager に登録されているすべての Cisco Unified IP Phone モデルが Cisco Unified Communications Manager に G.722 をアドバタイズすることを意味します。詳細については、『*Cisco Unified Communications Manager System Guide*』の「Cisco Unified IP Phones」の章を参照してください。

- [アドバタイズ G.722 コーデック (Advertise G.722 Codec)] : Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。このプロダクト固有のパラメータのデフォルト値には、エンタープライズパラメータに指定された値が使用されます。電話機単位でこのパラメータを上書きする場合、[電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウの [プロダクト固有の設定 (Product Specific configuration)] 領域にある [アドバタイズ G.722 コーデック (Advertise G.722 Codec)] パラメータで、[有効 (Enabled)] または [無効 (Disabled)] を選択します。

アイドル表示のセットアップ

電話スクリーンに表示される未使用時画面を指定できます。アイドル表示は XML サービスです。このサービスは、指定された期間にわたって電話機がアイドル (未使用) 状態にあり、機能メニューが開いていない場合に、電話機によって呼び出されます。

未使用時画面として使用できる XML サービスには、会社のロゴ、製品画像、株価情報などがあります。

未使用時画面の設定は、次の一般的な手順で構成されます。

- 1 電話機のディスプレイ用にイメージをフォーマットします。
- 2 電話機にイメージを表示するように Cisco Unified Communications Manager を設定します。

アイドル表示の作成および表示方法の詳細については、次の URL で『*Creating Idle URL Graphics on Cisco Unified IP Phone*』を参照してください。

<http://www.cisco.com/warp/public/788/AVVID/idle-url.html>

また、次の情報については、『*Cisco Unified Communications Manager Administration Guide*』または『*Cisco Unified Communications Manager Bulk Administration Guide*』で参照できます。

- アイドル表示 XML サービスの URL の指定
 - 1 台の電話機に指定する場合 : Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定 (Phone configuration)] ウィンドウにある [アイドル (Idle)] フィールド
 - 複数の電話機に同時に指定する場合 : Cisco Unified Communications Manager の [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページにある [URL アイドル (URL Idle)] フィールド、または一括管理ツール (BAT) の [アイドル (Idle)] フィールド
- アイドル表示 XML サービスを起動するまでの電話機の未使用時間の指定
 - 1 台の電話機に指定する場合 : Cisco Unified Communications Manager の [電話の設定 (Phone Configuration)] ウィンドウにある [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールド
 - 複数の電話機に同時に指定する場合 : Cisco Unified Communications Manager の [エンタープライズパラメータ設定 (Enterprise Parameters Configuration)] ページにある [URL ア

アイドルタイマー (URL Idle Timer) フィールド、または一括管理ツール (BAT) の [アイドルタイマー (Idle Timer)] フィールド

電話機では、アイドル表示 XML サービスの URL の設定と、サービスを起動するまでの電話機の未使用時間を表示できます。これらの設定を表示するには、電話機が Cisco Unified Communications Manager に登録されている場合は、アプリケーションメニュー ボタンを押して、[設定 (Settings)] > [ユーザ設定 (User Preferences)] > [オーディオ設定 (Audio Preferences)] を選択し、[アイドル URL (Idle URL)] パラメータおよび [URL のアイドル時間 (Idle URL Time)] パラメータまでスクロールします。デフォルトでは、アプリケーションメニュー ボタンは回線ボタン 24 (左の一番上の回線ボタン) です。

Cisco Unified IP Phone のバックライト

電力を節約し、電話機の画面のバックライトの寿命を確実に伸ばすには、不要なときにバックライトをオフにするように設定します。

Cisco Unified CM の管理を使用すると、バックライトを特定の曜日の指定時刻にオフにし、それ以外の曜日では終日オフにするように設定できます。たとえば、バックライトを平日の勤務時間後にオフにし、土曜日と日曜日では終日オフにするように選択できます。

バックライトがオフであっても、次のいずれかの操作を行えば、いつでもオンにできます。

- 電話機の任意のボタンを押す。
電話機はそのボタンに割り当てられている動作を実行し、バックライトが点灯します。
- ハンドセットを持ち上げる。

バックライトは、オンにするとそのままオン状態になりますが、指定された期間にわたって電話機がアイドル状態にあると、自動的にオフになります。

次の表は、バックライトをオンおよびオフにするタイミングを制御する Cisco Unified CM の管理のフィールドを示しています。これらのフィールドの設定は、Cisco Unified CM の管理の [プロダクト固有の設定 (Product Specific configuration)] ページで行います。このページにアクセスするには、Cisco Unified CM の管理で、[デバイス (Device)] > [電話 (Phone)] を選択します。

電話機の [省電力設定 (Power Save Configuration)] メニューで、その電話機のバックライト設定を確認できます。詳細については、[省電力設定メニュー](#)を参照してください。

表 1: バックライトのオンとオフを設定するフィールド

フィールド	説明
バックライト非アクティブ日 (Days Backlight Not Active)	[バックライト点灯時刻 (Backlight On Time)] フィールドで指定された時刻になっても、バックライトを自動的にオンにしない日。 ドロップダウンリストから単一または複数の曜日を選択します。複数の曜日を選択するには、Ctrl キーを押しながら目的の各曜日をクリックします。

フィールド	説明
バックライトのオンの時間 (Backlight On Time)	<p>毎日バックライトを自動的にオンにする時刻 ([バックライト非アクティブ日 (Days Backlight Not Active)] フィールドで指定されている日を除く)。</p> <p>このフィールドには、24 時間形式で入力します (0:00 は午前 0 時)。</p> <p>たとえば、午前 7:00 時 (0700) にバックライトを自動的にオンにするには、7:00 と入力します。午後 2:00 時 (1400) にバックライトをオンにするには、14:00 と入力します。</p> <p>このフィールドがブランクの場合、バックライトは午前 0 時に自動的にオンになります。</p>
バックライト点灯継続時間 (Backlight On Duration)	<p>[バックライト点灯時刻 (Backlight On Time)] フィールドで指定した時刻にバックライトがオンになった後、オン状態を保つ時間の長さ。</p> <p>このフィールドには、時間:分の形式で値を入力します。</p> <p>たとえば、ディスプレイを自動的にオンにしてから 4 時間 30 分にわたってオン状態を保つには、4:30 と入力します。</p> <p>このフィールドがブランクの場合、バックライトは午前 0 時 (0:00) にオフになります。</p> <p>(注) [バックライト点灯時刻 (Backlight On Time)] が 0:00 で、[バックライト点灯継続時間 (Backlight On Duration)] がブランク (または 24:00) の場合、電話機は常にオン状態になります。</p>
バックライトアイドルタイムアウト (Backlight Idle Timeout)	<p>バックライトをオフにするまでの電話機のアイドル時間。このオプションが適用されるのは、ディスプレイがスケジュールに従ってオフになった後に、エンドユーザが (電話機のボタンを押すか、ハンドセットを持ち上げることによって) ディスプレイをオンにした場合のみです。</p> <p>このフィールドには、時間:分の形式で値を入力します。</p> <p>たとえば、エンドユーザがディスプレイをオンにしてから 1 時間 30 分にわたって電話機がアイドル状態にあった場合にディスプレイをオフにするには、1:30 と入力します。</p> <p>デフォルト値は 0:30 です。</p>

